

令和7年度の教育活動等に対する学校評価書

学校法人静岡聖母学園 静岡聖母幼稚園  
園長 木林薫子  
静岡聖母幼稚園 学校関係者評価委員会  
委員長 水上奈穂美

1 幼稚園の教育目標

神に愛されていることを感じ、心豊かで逞しい子、思いやりのある子  
重点目標:神の愛を感じ、分かち合いが出来、意欲を持って物事に向かいよく考えて行動出来る子どもの育成  
一、教師や友だちとの出会いから、自分の存在に気付く事によって他人の気持ちが分かり、一緒に出来るようになる。  
一、親や他人に依存している状態から、自立して自分で考えて行動出来るようになる。  
一、衝動的、断片的な行動の傾向から、次第に思考力、判断力を持った行動がとれるようになる。

2 本年度の重点課題(学校評価の具体的な目標や計画)

保育の質の向上を図る為、ECEQ認定園として子ども主体のコーナー保育を今年度も心掛ける。保育環境の見直し、日々の密なミーティングを心掛け、保育士キャリアアップ研修や様々な研修を受け、幼稚部保育部それぞれの専門性を高めていく。職員の業務を改善するためAI活用研修を受ける。  
安全環境の見直しを図る。  
近隣の小学校との連携を密にし、幼小が円滑な接続を行えるように交流研修や参観の機会を増やす。遊びの会の参加者を増やすように声掛けや発信を工夫する。

3 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価

評価項目	自己評価(令和8年2月6日)		学校関係者評価(令和 8年 2月17日)			
	評価点	幼稚園の取組・反省と改善策	評価点	評価・意見		
教育内容	1	理念・方針	B	チャプレン2名より話を聞き日々学んでいる	B	
	2	園の課題	B	子ども主体のコーナー保育は現在進行形	B	
	3	行事の精選	B	詐欺被害防止、ひまわりPJ等園外行事が多かった	A	
	4	園児指導	A	音楽遊びを通し、様々な楽器に触れ楽しんだ	A	
	5	免許・資格	A	資格証の原本を確認した。	A	
	6	職員の課題	B	戸外、室内での配置の見直しを図った。	B	
	7	研修の企画	A	AI活用講座、療育機関講師の講義を聞いた	A	コドモン配信スピードに変化をもたらせた
	8	環境設定	B	保育環境設定、教材研究は常に怠らない	A	
子育て支援	9	未就園児	A	「きてみて」や「ひだまりの部屋」の参加は日々増加	A	
	10	在園児	A	父母の会と密に連携している	A	
	11	児相等の連携	A	子どもの痣等気づけば報告している	A	
	12	預かり保育内容	B	午前の活動との継続した遊びを目指したい	A	
	13	預かり保育体制	B	長期休暇中等大学生も入り、配置を整えた	A	
安全管理	14	施設と設備	C	門の外に行く子おり、体制の見直しを図った	C	迅速な全体周知と対策も検討は評価できる
	15	防犯体制	A	防犯活動には警察署の力も借りている。	A	
	16	安全衛生管理	B	感染症の対策は心掛けたが、学級閉鎖があった	B	
	17	アレルギー対応	B	個別対応の食事の対応を見直した	A	
	18	防災対策	A	防災研修も職員で参加し、見直しを図った	A	

評価項目	自己評価(令和8年2月6日)		学校関係者評価(令和 8年 2月17日)	
	評価点	幼稚園の取組・反省と改善策	評価点	評価・意見
人事管理	19	労働条件明示	A	
	20	時間外勤務	B	職員の意識を高める為今後タイムカードを検討
	21	就業規則	A	
	22	労働者名簿	A	
	23	自己評価	A	
財務管理	24	予算作成	A	
	25	決算の分析	A	
	26	情報開示	A	コドモン、インスタの更なる活用に期待したい
	27	個人情報保護	A	
	28	経理規程	A	

※自己評価、学校関係者評価とも1~28の各評価で特筆すべき点がある場合、またはC、Dの評価点の場合はコメントを記入のこと。

評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

4 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
子育て支援	未就園児遊びの会「来てみて遊んで聖母の日」「ひだまりの部屋」等や「誰でも通園制度」を行い、近隣の子育て支援のセンター的役割を担えるよう努力する。
安全管理	外部の不審者が簡単に入らないよう園門の防犯化を図る。ヒヤリハットや事故防止のための会議を怠らない
幼小連携	近隣の地域の施設とのイベント参加、小学校との交流や教育研究を図る。
業務の効率化	今年度受けたAI活用研修を基に業務の効率化を図る。

5 自己評価、学校関係者評価の公表

●公表期間 令和 8年 3月 1日 ~ 令和 8年 4月 15日

●公表方法 学内掲示板による

記入日 令和 8年 2月 24日

記入者 園長 木林薫子

